

# ふくらく通信

2014年第1号 5月21日発行

総号数 67 発行人 菅野香織

田東山への登り口。すぐ近くにある枝道が怖い。でも綺麗。素晴らしい。でも高くて。しばらく行くと、弘川ダムの田東湖が見える。

伊里前川の脇にあり、向かって左が田東山方面。右が伊里前の町。表示どおりに進み、少々道が分かりにくい。枝道に入らず道なりに行く。震災の傷跡を過ぎれば、棚田や緑が光る里山。やがて、緑いっぱいの中に線が引いたように整備された道のり上り坂に。



「田東山」の大文字が歌津の目印。

田東のつじ色越し青も青

歌津 伊里前の湾岸津波の傷跡



田東山はツツジの名所。例年5月末から6月上旬が見頃。(昨年の5/2頃は咲き初めで蕾多し)

ツツジに囲まれた細道を行くと、先人が納めた経塚があって山頂はすぐそこ。一段下に「展望案内図」がある。そこからの見晴しといったら、何と見事なことか。田東山から、自然の恵みは川となり里へ海へ。自然の廻りを大切にしたい。暮らすことを、ここに教えてくれる。

## 田東山からの眺め

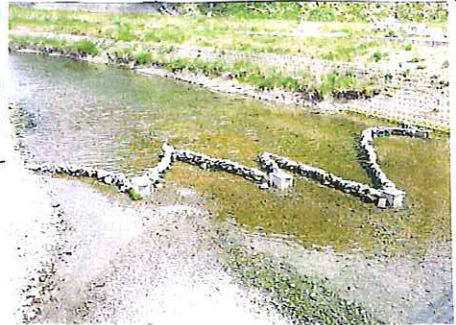
つじの紅色の向こうは、若葉茂る岬と海と空の青、青、青



被災地の輝き 歌津(南三陸町) 震災の傷を美しい里山と 温かな人々が和らげる

シロウオの力賜る伊里前

今の時季、歌津の伊里前川では、ぎざぎざの石積みが見え、目をひく。「ざわ」と呼ばれる魚の仕掛けだ。これでシロウオ素魚を獲っている。歌津のシロウオは、ハゼの仲間。産卵のために潮上するもの。



## 歌津の「ざわ」

シロウオは海でもとれるが、伊里前川に潮上したのを「ざわ」を捕まえるのが名物

## 川でとるシロウオは、少し



## 福幸商店内の

朝とったものがマルアラさんで売られていた。何と、昼過ぎてもまだ生きていたではないか。仙台まで持ち帰り、台所で鬼わが叫びながらとび上った。夕食にする段になっても、まだ数匹生きていたからびっくりだ。

下ごしらえ: 塩をふってざと洗う 食べ方: 韭と素魚の卵とし、かき揚げ。シロウオ丼 淡白だが、だしが出て美味しい



伊里前川のシロウオ漁は、4月5月6月と春から初夏にかけて行われる。自然の廻りは、鬼鬼でもある。調和を守れば、小さくも、生きる強さを見せるシロウオも来て、元気をくれる。

